

内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム

「新たな感染症危機にいかに備えるか～国民の生命・健康と生活・経済の両立を目指して～」

リスクコミュニケーションの観点から

奈良由美子

(放送大学教養学部/大学院文化科学研究科生活健康科学プログラム)

2024/1/12



1. 今後に向けての問題意識 – その前提 –

(1) リスクコミュニケーションとは

- 個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動
- Risk communication refers to the real-time exchange of information, advice and opinions between experts or officials and people who face a threat (hazard) to their survival, health or economic or social well-being. Its ultimate purpose is that everyone at risk is able to take informed decisions to mitigate the effects of the threat (hazard) such as a disease outbreak and take protective and preventive action. (WHO)
- その本質： 適切なリスク対応のため。 多様な関与者（ステークホルダー）。
関与者の相互作用を重視。 信頼。

(2) 国民は感染症リスク低減のパートナー

- Community engagement

(3) ふだんできないことはいざというときにもできない

- 平時の体制整備の重要性。リスクコミュニケーションも同様。

2. 今後に向けての問題意識 — 一次なる感染症危機への課題 —

- ① あらゆる人が感染の客体であり感染症対策の主体であった
- ② ステークホルダーの感染症に関する基礎的知識が必ずしも十分でなかった中でパンデミックが発生した
- ③ 不確実性の高い事象についてのリスクコミュニケーションとなった
- ④ 複数の問題領域にまたがるシステムミックリスクであった
- ⑤ 差別・偏見など、人権問題をうまぬよう配慮したリスクコミュニケーションが求められた
- ⑥ 誤情報、偽情報が発生した
- ⑦ 国民の行動変容維持への対応が必要であった
- ⑧ リスクコミュニケーション人材と体制の不足が顕在化した

2. 今後に向けての問題意識 — 一次なる感染症危機への課題 — 1

- ① あらゆる人が感染の客体であり感染症対策の主体であった
- ② ステークホルダーの感染症に関する基礎的知識が必ずしも十分でなかった中でパンデミックが発生した
- ③ 不確実性の高い事象についてのリスクコミュニケーションとなった
- ④ 複数の問題領域にまたがるシステムリスクであった
- ⑤ 差別・偏見など、人権問題をうまぬよう配慮したリスクコミュニケーションが求められた
- ⑥ 誤情報、偽情報が発生した
- ⑦ 国民の行動変容維持への対応が必要であった
- ⑧ リスクコミュニケーション人材と体制の不足が顕在化した

(1) ステークホルダーの属性、状況、ニーズに対応したリスクコミュニケーションへの備え

- マルチメディアと多言語対応の一層の充実を平常時から
- 早期からの広聴と対話（相談窓口、アンケート調査、SNS分析、オンライン対話）
- とくに初動期は国民の情報ニーズと不安が高まる。相談窓口を速やかに立上げられるよう準備しておく。
- 寄せられた国民の意見やニーズを関係機関にフィードバックする仕組みを整える

(2) 感染症に関するリテラシーの涵養

- 学校教育（様々な科目のなかで扱う工夫）
- 地域、職場での定期的な情報提供、講習会等
- とくに新興感染症の特性についての理解を

2. 今後に向けての問題意識 — 一次なる感染症危機への課題 — 2

① あらゆる人が感染の客体であり感染症対策の主体であった

② ステークホルダーの感染症に関する基礎的知識が必ずしも十分でなかった中でパンデミックが発生した

③ 不確実性の高い事象についてのリスクコミュニケーションとなった

④ 複数の問題領域にまたがるシステムリスクであった

⑤ 差別・偏見など、人権問題をうまぬよう配慮したリスクコミュニケーションが求められた

⑥ 誤情報、偽情報が発生した

⑦ 国民の行動変容維持への対応が必要であった

⑧ リスクコミュニケーション人材と体制の不足が顕在化した

(3) 不確実性の存在を伝える・理解する

- 最新の情報を、科学的知見に基づいて、早期に、正確に、分かりやすく発信する（平常時から慣れておく）
- 現時点ではまだ分からない点があること、それに対応中であることを明確に伝える
- 受けとめ側のリテラシー（科学リテラシー）も重要

(4) 一体的な情報発信の意義を理解し、実践する

- 「ワンボイス（シングルボイス）の原則」とは、スポークスパーソンを一人に限定することではない。多様な情報源からであっても一貫した情報を提供すること。
- リスク管理機関による一貫性のある情報発信・共有は「信頼」につながる。とくに有事において、政府の関係機関が一体的な情報発信を行うことは重要。
- 複数の組織間（国と自治体、複数の自治体、関連機関等）での平常時からの連携

2. 今後に向けての問題意識 — 一次なる感染症危機への課題 — 3

① あらゆる人が感染の客体であり感染症対策の主体であった

② ステークホルダーの感染症に関する基礎的知識が必ずしも十分でなかった中でパンデミックが発生した

③ 不確実性の高い事象についてのリスクコミュニケーションとなった

④ 複数の問題領域にまたがるシステムリスクであった

⑤ 差別・偏見など、人権問題をうまぬよう配慮したリスクコミュニケーションが求められた

⑥ 誤情報、偽情報が発生した

⑦ 国民の行動変容維持への対応が必要であった

⑧ リスクコミュニケーション人材と体制の不足が顕在化した

(5) 人権を守るリスクコミュニケーション

- 差別や偏見は許さないとの強いメッセージ（国、自治体、各組織）
- 感染症への差別や偏見が、間接的に感染拡大につながり、感染症対策を阻害することを伝える・理解する

(6) 誤情報、偽情報、インフォデミックへの対応

- まずは公的機関、専門家による迅速で正確な情報発信
- 情報リテラシー（複数の情報源を確認する、情報のシェアは慎重に行う等）、科学リテラシーの平常時からの涵養
- インフォデミックのモニタリングと管理に携わるインフォデミック・インサイトチームの確立・訓練

2. 今後に向けての問題意識 — 一次なる感染症危機への課題 — 4

① あらゆる人が感染の客体であり感染症対策の主体であった

② ステークホルダーの感染症に関する基礎的知識が必ずしも十分でなかった中でパンデミックが発生した

③ 不確実性の高い事象についてのリスクコミュニケーションとなった

④ 複数の問題領域にまたがるシステムリスクであった

⑤ 差別・偏見など、人権問題をうまぬよう配慮したリスクコミュニケーションが求められた

⑥ 誤情報、偽情報が発生した

⑦ 国民の行動変容維持への対応が必要であった

⑧ リスクコミュニケーション人材と体制の不足が顕在化した

(7) ステークホルダーのパートナーシップを引き出す リスクコミュニケーション

- 行動変容と維持には、自己効力感、集団効力感を高めるメッセージが重要
- 感染症に関するリスクコミュニケーションにおいて広報は一義的に重要。同時に、特に中・長期に渡るパンデミックでは、広聴と対話によるリスクの共考と協働も必要となる
- 国は、収束そして次なる平常に至るまで、感染症対策をどのように行うのかに関する大きな方針とビジョンを示し続けることが必要
- 率先垂範を見せるコミュニケーションも必要

2. 今後に向けての問題意識 — 一次なる感染症危機への課題 — 5

① あらゆる人が感染の客体であり感染症対策の主体であった

② ステークホルダーの感染症に関する基礎的知識が必ずしも十分でなかった中でパンデミックが発生した

③ 不確実性の高い事象についてのリスクコミュニケーションとなった

④ 複数の問題領域にまたがるシステムミックリスクであった

⑤ 差別・偏見など、人権問題をうまぬよう配慮したリスクコミュニケーションが求められた

⑥ 誤情報、偽情報が発生した

⑦ 国民の行動変容維持への対応が必要であった

⑧ リスクコミュニケーション人材と体制の不足が顕在化した

(8) リスクコミュニケーション体制の整備と人材育成 ＝広報・広聴・対話のできる人材と体制を普段から有しておく

- COVID-19初動時にリスクコミュニケーションが比較的うまくいった台湾、韓国は、それぞれSARS、MERSの経験をふまえてリスクコミュニケーションを含めた体制強化をとっていた
- 東京感染症対策センター（iCDC）：2020年10月設立。平時と有事。専門家ボードにリスクコミュニケーションチームを常設
- リスクコミュニケーション原則の策定、マニュアル作成、リスクコミュニケーション研修、広報官の設置等
- 外部からの専門的助言や人材支援を受けられるネットワークを保有しておく